

日本圧延工業7%増収

今期、地金高と販路拡大で

日本圧延工業（本社
滋賀県東近江市、磯
部正信社長）の今期（2
024年7月期）の業
績は、売上高が前期比
7%増の45億円となる
見通しだ。製品販売価

格の指標となるアルミ
新地金価格が上昇基調
で推移したほか、加工
品部門の生産体制ブラ
ッシュアップ、営業活
動の強化による販路拡
大が奏功した。

足元ではコンデンサ
ーやハードディスク関
連などの在庫調整によ
り需要は一服している
が、販売量の多くを占
める自動車分野の持ち
直しや加工品関連の拡

販に期待し、来期の業
績見通しは、売上高は
今期と同水準の45億円
以上、営業利益は今期
実績を上回る2億円超
を目指す。
設備投資は、この8

月に圧延機およびコイ
ラーの直流モーターを
交流モーターに更新し
約2億円を投じる。ま
た今後は老朽設備の補
修に加えてBCP対応
と省エネ対策として特
別高圧受電設備の更新
なども計画している。

同社は、生産工程で
のリサイクル率向上に
注力している。自社で
の市中央スクラップ原料
の調達や製品販売先の
リターン材の活用など
で、今期の生産量に占

める循環アルミ使用率
は55%を超える見通し
だ。「脱炭素社会の実現
のため、グリーンアル
ミを筆頭にブランドイ
ングを進め、自社製品
の付加価値を高めてい
く」（磯部社長）。